

# 新着図書からおすすめの5冊



毎週火曜日は、新着図書の配架日です。本日5月12日（火曜日）の新着図書の中からおすすめの本を紹介します。インターネット予約・貸出は、5月19日（火曜日）からです。

## 『あいまいな喪失とトラウマからの回復』

ポーリン・ボスほか／著、誠信書房／刊、請求記号：146.8/B,66

内容：行方不明や認知症など、家族の「あいまいな喪失」にどのように向き合えるのか。「あいまいな喪失」の概念や、介入の理論などを解説。多様な「あいまいな喪失」の治療・援助に携わる人に向けた包括的なガイド。

著者紹介：ハンター大学ソーシャルワーク学部モーセ記念(特別講座)教授。

## 『子どもの育ちを支える児童文化』

川北典子／著、あいら出版／刊、請求記号：371.4/Ka,94

内容：児童文化とは何か。その定義や歴史、領域等を解説するとともに、紙芝居、わらべうた・童謡、おもちゃ、テレビアニメの変遷を紹介。子どもにとっての遊びの重要性を見つめ、豊かな遊び環境を維持していく方法も考える。

## 『身につく気象の原理』

横川淳ほか／著、技術評論社／刊、請求記号：451/Y,74

内容：初学者でも気象のしくみが理解できて、きちんと身につく！大気中で起こる様々な現象について、「何が起こるのか」「なぜ起こるのか」ということを掘り下げて解説する。

著者紹介：1974年生まれ。広島県出身。京都大学大学院理学研究科博士課程修了(専攻:X線天文学)。博士(理学)。コムタス進学セミナー呉駅前校校舎長・理科主任。気象予報士。

## 『“生きる”時間のパラダイム』

関 礼子／著、日本評論社／刊、請求記号：543.5/ I,36

内容：被災現地では原発事故後の復興を巡って、何が課題として語られ、どんな解決策が必要とされているのか。原発事故に翻弄される地域の歴史や文化、社会的位相の中で、原発事故後の社会がどのように立ち現われてくるのかを考える。

## 『コミュニティ・デザインによる賃貸住宅のブランディング』

長沢 伸也ほか／著、晃洋書房／刊、請求記号：673.9 /N,22

内容：賃貸住宅市場では、シェアハウスを中心とする「コミュニティ型賃貸住宅」が人気を集めている。その理由と独自のブランド力が生み出される要因を、経営者らへのインタビューと「経験価値」の理論から解き明かす。

著者紹介：1955年生まれ。早稲田大学大学院理工学研究科博士前期課程修了。同大学大学院商学研究科教授。

佐賀県立図書館 〒840-0041 佐賀県佐賀市城内二丁目1-41

Tel 0952-24-2900 Fax 0952-25-7049 E-mail [saga-kentosyo@pref.saga.lg.jp](mailto:saga-kentosyo@pref.saga.lg.jp)